

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>施設に隣接している子育て支援センター「きららん」や地域の交流を深めながら、ボランティア活動を通して入居者は心の癒しを得ている</p>		
<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>理念に基づき入居者一人ひとりに対しどう対応していくか職員全員で話し合う場を設けている</p>		
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>施設行事への参加の呼びかけは毎月の家族への手紙にて連絡、日々の生活で変化があった場合はその都度電話報告または家族来所時直接対話している</p>	○	<p>地域の行事には積極的に参加していないが、少しずつでも参加していきたい</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>施設の夏祭りには町内にチラシを配布し楽しんでいただいている</p>	○	<p>買い物に出掛けたり、散歩をしたり時には畑仕事をしたりしている時など周囲の人達と挨拶をしながら徐々に溶け込んでいけるように日々努力している。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>町内会に入会しているが行事には参加できていない</p>	○	<p>清掃活動など参加できる行事から参加したい</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>実習生やボランティアの人達の受入れを積極的に行っている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員同士で自己評価を行い、日々の業務を振り返ることができた	○	業務についてできるだけミーティングを行い今後に役立てたい
8 ○運営推進介護を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	現状報告は行っているがサービス向上に向けての意見交換を活発には行っていない	○	職員会議の回数を重ねるごとに状況の把握ができ意見交換ができるようになってきている。今後も活発に意見交換できるように取り組みたい
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	地域包括支援センター主催の連絡会に参加し、他事業者との情報交換を行ったり意見交換をしている		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	成年後見人制度を検討した事例がありその都度関係者に話しをしている	○	社会資源の活用を含め、学習の機会を増やしていきたい
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。	身体拘束防止の研修会に参加しているが、勉強会やいいんは会の設けていない	○	全職員が虐待にあたる行為を理解し徹底防止していく
4. 理念を実践するための体制			
12 ○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	施設入所契約時には書類一式の説明はしているが説明事項が多く、退去時に家族が説明をきいていない、そんなはずないと言われる事がある	○	入居料金と退去時の対応には特に気をつけて確認しながら行っていく

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	管理者、介護員に苦情がでた場合は速やかな対応を行い、職員全員に周知対応している		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	月1回家族に写真、健康状態、暮らしぶりなどのお便りを発行、担当職員変更時もお便りの中で報告。体調不良時の受診報告は速やかに電話報告している。金銭管理の遠方の家族には領収書、出納帳のコピーを郵送、他入居料支払時に出納帳確認と領収書を渡している		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	その都度管理者、職員で対応しているが、入居中の苦情を口にする家族は少ない	○	家族への声かけ、コミュニケーションをとる機会を増やし、その中から思いを汲み取り運営に反映させたい
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日々のミーティングの中から意見、提案を聞き、月1度の会議にて意見交換を行い反映させている		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	行事、受診、入浴の際は職員の人数を多くしたり、入居者の状況の変化時等には介護主任を中心に柔軟な対応を行っている		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	今年度の離職者、離職予定者が多いが、業務引継ぎを徹底し、入居者へのダメージを防いでいる	○	離職理由を把握し、今後必要最小限に抑える努力をする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部の研修会(有料、無料に関係なく)に希望者は参加できている。管理者から研修を勧められたり、講演会入場料を負担してくれる場合もある	○	介護員の参加の場が少なく、積極的に勧めていきたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	周辺地域の施設見学会、交流会が定期的であり、積極的に参加している	○	活動を通じてどの様にサービスの質を向上させていくかを十分に検討し、実施していきたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	4交代勤務にて職員の親睦会はできていない。管理者は職員本人のみならず、家族の状況に応じシフトの便宜を図っている	○	勤務時間内の休憩が十分にとれず今後も検討していきたい
22	○向上心をもって働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。	実績、勤務状況を把握している	○	向上心をもつよう研修会や勉強会の参加を引続き継続していきたい
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	本人よりも家族の話を聞くことが多く、本人と面談時十分に不安や悩みを聞ける状況にない。又面談時家族が入所の話を本人にしていなくても十分話しあいに至っていない事も多い	○	面談前に家族から本人に入所についての十分な話し合いの場をもって頂く、聴く機会を多くつくりたい
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が入所の相談に来た時には本人の状況を把握し入所以外のサービス等についても話をし、選択できるようにしている	○	困っていること、不安なこと求めていることをしっかりと把握し、聴く機会を多くつくる

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人の状況を把握し、グループホームでの生活が最適かを見極め、家族との話し合いの場で必要に応じ他機関の紹介、連絡を取るようしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	緊急の入所(退院間近、家族介護が限界)が多く、現入居者はいきなりのサービス開始が多い	○	施設見学は家族のみが多く、本人が来所して頂けるよう努めていく
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	職員は言葉だけではなく、入居者の様々な様子行動により喜怒哀楽をくみ取り、対処法も周知している。調理方や野菜の保存方等々学ぶ機会も多い	○	活動が減少している入所者にも楽しみや身体機能が維持できるような取り組みを行なっていく
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	担当職員はもとよりケアマネ、管理者は家族との情報を共有できるようにしている	○	来所が難しい家族には手紙や電話で連絡を取っているが、十分な関係作りには至っていない。努力していく必要がある。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族との外出や外泊、本人と自室にて宿泊を等行えるよう環境作りを行っている。施設行事などの参加を呼びかけ面会の働きを行っている。	○	意思疎通が困難な入居者には特に家族来訪時、日々の生活の様子など継続して話していく
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の協力を得、取り組んでいる。又希望があればできる事から職員が支援しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	入居者同士居室を訪問し合い、食堂やホールにでも交流できるように支援している。孤立する入居者には、介護員が仲介に入り交流できるようにしている。食堂の席などに配慮し、トラブルになりにくい環境づくりに努力している	○	入居者の年齢層が幅広く、入居者同士の交流には日々変化があるが、その日の状況を見ながら交流を深めたり、距離を置いたり努める
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	事例はないが必要に応じて取り組んでいきたい		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者からの希望はできる事から対応している。本人が希望しても家族の意向もあり希望通りにならない事もある。	○	家族の協力を得ながら楽しみ事を増やしていきたい。思いを伝えられない入居者からは日々の生活を通して思いをくみ取っていきたい
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでのサービスの利用の経過等やおおまかな生活歴や馴染みの暮らし、生活環境は把握しているが十分とはいえない。	○	本人との会話中や持ち物や好みのものなど家族により情報を得、把握し
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	一日のリズム、日々の観察の中から把握に努めている	○	有する力があることでも、やりたくない、やらない事があり本人の状況にあった支援をしていく
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	変化の著しい入居者の話し合いが優先となり入居者全員のカンファレンスが十分に行えているわけではない	○	全入居者のカンファレンスが毎月確実に行えるようにする

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	期間に応じた見直しは行えているが、変化に生じた見直しは十分に行えていない	○	毎月のカンファレンスを実施し、入居者の変化に合わせて現状に見合った計画作成をしていく
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	状態のみの記録が多く、表情や言葉などの具体的でない箇所もある	○	個別の記録を具体的にし、介護計画に反映できるよう、指導、勉強会を実施していきたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	週一度の医師による往診など医療連携体制を整えています。その他、個々に受診や買い物などに職員が同行しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員、町内会長、地域のケアマネと入居者家族の代表との運営推進委員会を3ヶ月に1回行っている。隣接している子育て支援「きららん」では、クリスマス会、もちつきなど子どもたちと一緒に交流行っている		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	他ケアマネやグループホームとは研修等で話しあいの場を設けている。現在は訪問理容、マッサージを利用している		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	研修会やケアマネ交流会で情報交換している	○	必要に応じ包括支援センターを利用していきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	事業所の協力医院があるか、本人や家族が希望するかかりつけ医を利用し、個々に応じた受診の支援ができています		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	定期受診にて様子、変化などを相談報告している。必要時には家族の同行も一緒に医師から説明を受けるよう支援している		
45	○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	看護職員2名を配置し日々の健康管理を行っている。夜間も状況に応じ看護師と連絡を取り対応できるようにしている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は医療関係者、家族と十分に今後について話し合い、情報交換を行い退院に結びつけられるようにしている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	主治医と家族の面談をもち情報共有し方針を決めるようにしている	○	症状や家族の気持ちにも変化が現れるので、その都度話し合うようにしている
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	今迄ターミナルケアは行っていないが、重度化した入居者と家族には事業所で、できる事できない事医師とも連携をとりながら対応を決めている	○	家族はぎりぎりまで施設の生活を望んでも全てが可能となるわけではない。主治医にも施設でどこまで対処できるか理解してもらおう為に早期からの話し合いを行っていきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	入居者が、他のグループホームへ転所になった場合は、できるだけ情報を伝え通院などもスムーズに行なえるようにかかりつけの主治医にも伝えている		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	会議の中で管理者より、言葉使い入居者の対応接し方等の指導があり職員全員で取り組んでいる	○	会議、勉強会の中でさらに意識向上を図るようにしていきたい
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	声かけ、会話を多く持ち本人が自己決定できるよう余裕を持った対応を心がける。意思表示が難しい入居者は嬉しい事、嫌なこと意外は判断が難しいことがある		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	個々の生活リズムを把握し決まったペースで生活はできているが、受診が優先となり入浴については決まった日、時に入れられないこともある	○	本人の希望を取り入れた支援を行えるよう担当者が中心となり活動していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	外出時には外出着を選んで着替えるようにしている。女性は口紅を塗ったりとおしゃれの声かけを行っている。敬老の日には化粧メーカーが来訪され女性入居者にメイクのサービスを行ってくれる		
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	糖尿病の人が多く、食事制限されているので思うような食事は出せてあげられないが、行事や誕生日など入居者と職員で食事、おやつなどを作ったりしている。	○	高齢者と若年者の入居者がいるので食事の好みが多岐にわたるので充分楽しめるまでには至っていない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 ○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	喫煙はドクターストップの人がいる為、別室にて吸って頂いている。お酒はお盆、お正月など家に戻られた時に家族とともに楽しんでいる入居者もいられるがほとんどの入居者は飲まれない。	○	おやつや飲み物は、家族と相談し、量などを決めて居室で食べてもらう。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	尿意がないオムツ使用者には、時間でトイレ誘導。時々尿意のあるオムツ使用者は声かけもするが本人に任せている時もある。	○	やさしく声かけてトイレ誘導していく。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入居者の時間に合わせて入っていただいている。	○	夏などは汗をかくことが多いのでその都度対応していく。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	テレビを観ながら居眠りされたりする入居者や職員と話しをするのが大好きな入居者など、一人ひとり好きな時間を過ごされている。	○	夜間に起きられている入居者には出来るだけホールに居ていただき、昼夜逆転しないようにする。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	目標を持ち好きな時間に(散歩、腹筋、歩行練習、脳トレなど)される入居者が多い。	○	いつでも協力していきたい。
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人がお金の管理を希望される場合は、家族と相談しこれくらいならと納得された金額を管理していただく。	○	今までお金を紛失されることなく、管理されている。
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	近くのスーパーへの買い物、散歩などはその都度介護員が付き添っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	外食、買い物、墓参り、その他は家族に依頼している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	夜は20時までの制限はあるが、いつでも自由に利用できるようにしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでも来所できるようにしている。遠方からの来所者には宿泊が可能であることなど伝えている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	転倒の危険性がある入居者には、足元にセンサーの設置をし行動を直ぐに察知し駆けつけるなど身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	○	行為のみならず、言葉などによる抑制も行わないように常に会議の場などで職員全員が正しい理解ができるよう取り組みたい。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	外に出たくなる入居者に対し、一緒に職員が施設周囲の散歩を行っている。又、早めの声かけを行い他のことに気がむくようなケアを行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	日中入居者が居室で過ごされているときや夜間などは常時巡回をしながら見守りをする。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	薬は利用者の手の届かない場所に保管し鍵をしている。剃刀やはさみなどは預かるようにしているが、自分で持っている方もいます。	○	状態に応じお預かりしているが、まだまだ大丈夫と思われる入居者もおり難しい場合もあり、今後ご家族立会いのもとお預かりしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書や(ヒヤリハット)を使用。事故発生時の記録を書き、全職員で話しあい対処法を検討する。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急法救急員の資格を持った職員は在籍しているが全ての職員が行えるとはいえない。	○	紙面の勉強会だけでは実践に結びつかないため、研修会を年間行事に取り入れる必要がある。又、入居者の急変に備え全職員が対応できるよう整備し、周知徹底を図りたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年2回避難訓練を行い、通報、消化訓練を行っている。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	1人で外出を頻繁に行う入居者については国道が近く交通量も多いため家族とは事故の危険性について十分話し合っている。ベットから転落の危険性のある入居者についてはセンサーマットの取り付けを検討、家族には手すりをつけないことを十分に話している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルの変化、排泄、動作など職員全員で観察し看護師に報告し受診してもらう。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	入居者が、受診し薬の変更があったときは全職員が解るよう申し送りをして把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	毎日排泄チェックを行い、食事は繊維質の多い食材などを取り入れている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	自分でできる入居者には自分で行ってもらい介護員が確認をしている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食欲がない時は家族にお願いして用意してもらったり買い物に出掛けた時に購入したり、水分は個人個人でジュースやゼリーなどを購入し摂取量が少ない時などに摂取していただいている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	昨年ノロウイルス感染の疑いがあり保健所と相談しながらマニュアル作成。インフルエンザウイルスの予防接種は毎年実施している。玄関には消毒液、マスクなど準備、外出時の手洗い、うがいは必ず行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材は3日ごとに購入している。夏は食材が傷みやすいので当日買いにいけることがある。	○	布巾、まな板の消毒は毎日行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	小さな菜園を作り、入居者と一緒に収穫を楽しんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居者が散歩の時に摘んできた草花を食堂にかざったり、近くで採ったフキを料理している。ホールのテレビの音や職員の話し声が大きくなりすぎないように注意している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	廊下に設置した椅子は入居者同士の交流の場になっている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	できるだけ自宅から家具や写真など見慣れた物、使い慣れた物を持参してもらっている。	○	自分の居室がわからなくなっても家具を見ると自分の居室とわかることが多く家具の持込みを継続していきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	冬期間の換気がなかなかできない。本人が居室にいない間に換気をするが十分ではない。	○	入居者自身が納得しないとなかなか換気や室温の調節は難しい。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗面台は車椅子の人でも使える高さになっている。脱衣室の椅子は身体状況に合わせて座れるものになっている。又、廊下が長く手すりを使用した歩行練習、車椅子での自走運動やレクリエーションにも活用している。	○	施設内の家具など入居者が使いやすいか又、手すりが不足していないかなど常に入居者の視点で点検を行っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	夜間はトイレ点灯しています。わからない人には声掛けを行い、特に工夫はしていない。		
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	施設敷地内に東屋があり、散歩時の休憩などに利用できる。花壇に野菜なども植え、収穫を入居者にしていただき食事のメニューに取り入れている。施設周囲は草花、山葡萄もあり談話室や居室に飾り楽しんでいる。	○	花壇の活用は入居者の楽しみの一つであり、引き続き楽しめるように介護員も一緒に花壇作りを行っていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

糖尿病の食事療法や水分、塩分制限対処を行っている。隣接する子育て支援「きららん」では子どもたちとの交流もあり癒しを得ている。入居者の誕生日や敬老会、季節ごとの行事には特別メニューを作りお祝いしている。夏祭りではボランティアによる和太鼓やよさこいがあり、ご家族、町内会の方にも来所してもらい盛大に行っている。生活面ではゆったりとした雰囲気でも過ごせるよう職員は言動に注意を払い取り組んでいる。又、入居者の身体機能の低下を防ぐよう運動の声かけや塗り絵、脳トレーニング本なども活用している。入居者との買い物や外出はできる限り実現している。